令和５年度中学生の 税についての作文」

作 品 集

『中学生の「税についての作文」』募集事業は、全国納税貯蓄組合連合会が、租税教育の一環として国税庁との共催で実施しており、令和５年度で第57回となりました。

全国の応募状況は６，４５７校４４５，９４５編の応募がありました。

玉川納税貯蓄組合連合会におきましても、玉川税務署との共催により、９月に玉川税務署管内の中学校から12校982編もの応募をいただき、厳正な審査の結果、入選作品として27編が選ばれました。

どの作品も普段の生活や、ご家庭での出来事から感じる税との関わりなど、税についてよく学び、関心を持っておられると感心しております。

『中学生の「税についての作文」』募集事業は、次世代を担う中学生の皆さんに、税について正しく理解し、関心を持っていただくことを目的としており、作品の優劣をとりあげることが直接の目的ではありません。今後、１編でも多くの応募があれば、作品を書いていただいた皆さんの周りの方も、税に関心を寄せていただく機会も増えるわけでございますので、今後とも当連合会の重点事業として募集事業を継続していく所存でございます。

今後とも、中学生の「税についての作文」について、御理解と御協力をお願いいたします。

令和５年12月

玉川納税貯蓄組合連合会会長

主催：玉川納税貯蓄組合連合会・玉川税務署
後援：東京都世田谷都税事務所・世田谷区・東京税理士会玉川支部

目　次

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会　会長賞

「十パーセントとその先の社会」
聖ドミニコ学園中学校　三学年　松本怜子……1

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会　優秀賞

「食と税金」
世田谷区立用賀中学校　三学年　麻田倫太郎……2

東京納税貯蓄組合総連合会　会長賞

「父は『税金どろぼう』」
世田谷区立深沢中学校　三学年　大坪あい……3

玉川税務署長賞

「税金ゼロの日本だったら」
世田谷区立尾山台中学校　三学年　佐藤千颯……4

「当たり前に感謝」
世田谷区立玉川中学校　三学年　古山芽衣……5

玉川納税貯蓄組合連合会　会長最優秀賞

「ふるさと納税が人々の暮らしに与える影響」
聖ドミニコ学園中学校　三学年　湯本結衣……6

世田谷都税事務所長賞

「あしたをつくる税金」
世田谷区立深沢中学校　三学年　柴宮航……7

世田谷区長賞

「高齢者の社会参加で税収を増やす」
世田谷区立瀬田中学校　三学年　佐伯亮祐……8

東京税理士会玉川支部長賞

「税の在り方を見出すことの大切さ」
東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　高谷奈央……9

玉川納税貯蓄組合連合会　会長優秀賞

「九十一万人の応援」
世田谷区立用賀中学校　三学年　青木花音……10

「祖母の退院」
世田谷区立用賀中学校　三学年　伊藤有香……11

「くらしを助けるふるさと納税」
世田谷区立砧南中学校　三学年　岡みどり……12

「税金が持つ役割」
世田谷区立玉川中学校　三学年　荻野壮太……13

「税金は七変化」
世田谷区立深沢中学校　三学年　篠原知花……14

「地域の架け橋ふるさと納税」
世田谷区立八幡中学校　三学年　西櫻彩世……15

「税でみる世界」
世田谷区立尾山台中学校　三学年　橋本優衣香……16

「未来へ受け継ぐ税」
東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　吉田璃瑠……17

玉川納税貯蓄組合連合会　優良賞

「サイレンと税金」
世田谷区立玉川中学校　三学年　有坂日夏乃……18

「正しい使い道」
東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　安藤瑞月……19

「未来への一票」
世田谷区立東深沢中学校　三学年　宇田川葵……20

「税がつくる笑顔」
世田谷区立砧南中学校　三学年　押田絢音……21

「もしもの世界」
世田谷区立東深沢中学校　三学年　鎌田織彩……22

「持続可能な税の仕組みを目指して」
世田谷区立尾山台中学校　三学年　岸本そら……23

「僕と税金とのかかわり」
世田谷区立奥沢中学校　三学年　寺田紳二……24

「税金と私たちの関係」
世田谷区立瀬田中学校　三学年　平元呂奈……25

「私たちの未来を担う税金」
吉田みゆな……26

「台風被害から学ぶ税」
世田谷区立八幡中学校　三学年　米田あろえ……27

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞

十パーセントとその先の社会

聖ドミニコ学園中学校　三学年　松本　怜子

この作文を書くにあたって、私にとって身近な税は何だろうか、と考えた。

そこで、私の頭に浮かんだのは、「消費税」だ。消費税は私が小学五年生の時に、十パーセントに引き上げられた。子どもでも、物を購入する時に払っている税で、最も身近にある税だと思う。

次に、私はその消費税は何のために使われているのか興味を持ち、使用目的を調べてみた。

消費税は主に、「社会保障」のために使われていることが分かった。社会保障は私たちが安心して暮らしていくために必要な年金・介護・福祉などの公的サービスである。日本の社会保障関係費は、歳出総額の約三十二パーセントという大きな割合を占めている。

ところが、日本の社会保障は他の先進国と比べて、低負担・低福祉と言われている。その一方で、フランスやスウェーデンなどの社会保障は、高負担・高福祉と言われている。国によって社会保障の在り方に違いがあるようだ。

スウェーデンやフランスの社会保障はどのようなところが高福祉なのだろうか。日本との違いは何だろうかと疑問を持った。

まず、日本の社会保障は年金・医療・介護など「引退世代」に向けた内容が多い。それに対して、スウェーデンは「現役世代」に向けた内容が多く、充実している。例として、大学までの学費無償・十八歳以下の医療費無料・子ども手当の充実が挙げられる。夫婦で合わせて四百八十日の育休が取れる制度が設けられており、育休中は月給の八十パーセントが保障される。フランスの社会保障は特に「家族手当」が手厚い。児童手当も含めて三十種類もの手当てがあり、充実している。また、独自の税制として「N分のN乗方式」がある。子どもが多い世帯ほど所得税が軽くなるという仕組みになっている。

このように、高福祉と言われる国では「現役世代」や「子育て世代」に向けた経済的支援・制度が充実していることが分かった。

社会保障等による高福祉は、国民の税金の高負担を伴う。しかし、高福祉はその負担以上の恩恵を国民社会に与えると考える。まず、国民への経済支援が充実する。国民の生活が守られる。また、教育費・医療費の無償化は貧困をなくすことに繋がると思う。その国で育つ全ての子どもに適切な医療と教育を受ける機会が平等に与えられる。そして、このような経済支援や子育て支援は少子化問題の解決にも繋がると考える。子育てにかかる費用に対する国民の不安が解消され、子供を産みやすくなり、その後の育児も安心してできるようになると思う。

消費税は社会保障のために使われており、社会と大きく繋がっていることが分かった。今後も税金がどのように社会に役立てられていくのか、意識してみていきたいと思った。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

食と税金

世田谷区立用賀中学校　三学年　麻田　倫太郎

私の父は静岡で養鶏業を営んでいます。父の農園では鶏を飼い育てて卵を産ませ、それを売る採卵養鶏を行っています。そんな父が今年の7月、決算という仕事をしていました。

私は父に「決算って何をするの？」と尋ねました。すると父は「一年間その仕事をしていくら儲かって、いくら費用が掛かったかをすべて計算して納める税金の額を出すことだよ。」と言いました。私は税金のことは全くと言っていいほど知らなかったので父が納める税金の額が気になり、それを父に聞きました。父は昨年払った税金の額を教えてくれました。（今年の分はまだ計算が終わってなくわからないので）その額は中学生の私にとっては大金でした。私は父に言いました。「税金がなければ、もっと使えるお金が増えるのに。」すると父は「税金に助けられることはたくさんあるんだよ。」と言いました。

去年から今年にかけてロシアとウクライナの間での戦争や、鳥インフルエンザウイルスの流行で養鶏業界はとても大変な時期だったそうです。鶏の仕入れ代金の値上がりや燃料費の高騰、特に鶏のエサの値上がりが一番大変だったそうです。この大変だった時期にエサの購入をするための補助金が出てとても助かったと父は言いました。畜産業や農業では他にもいろいろな補助金が使われていると教わりました。この補助金というものは税金が使われています。今回の作文を作る際に、どんな種類の補助金が畜産業や農業で使われているのかをインターネットで調べてみました。

父が言っていたエサ購入のための補助金以外にも、新しい農業機械購入のための補助金、新たに人を雇うための補助金、新しく農業や畜産業を始める人のための補助金、荒廃した農地で農業を行う人のための補助金、ＩＴを導入するための補助金などがありました。中には国産チーズの競争力を向上させるための補助金というものもありました。特に私が興味を持った補助金は、自然災害や疫病などで収入が減ってしまった際に、減ってしまった分を補てんしてくれるという補助金でした。この補助金のおかげで大きな天災があっても、農業や畜産業の仕事を続けられた人が増えたそうです。日本の食料自給率は低いと社会の授業で勉強しましたが、このような補助金がなければ、今よりもっと食料自給率は下がっていたのではないかと思いました。また卵や野菜、牛乳、肉、米などの毎日のように使う食品の値段も、もし補助金＝税金がなければ今よりもっと高価なものになっているとも父は言っていました。

私たちがほぼ毎日行っている「食べる」ということにも実は税金が深く関わっているのだということを知って驚きました。私たちみんなの普段の生活を守るために、みんなで税金を納めることは大切なことだと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

東京納税貯蓄組合総連合会会長賞

父は「税金どろぼう」

世田谷区立深沢中学校　三学年　大坪　あい

私の父は自衛隊に所属している。私が幼い頃はよく外国に派遣されていた。時には危険な場所へ行くこともあるらしく、すごいと思う。そんな父の仕事は税金によって成り立っている。

あるとき、「税金どろぼうを許すな」という一文が目に入ってきた。「税金どろぼうって何？どういうこと？」と思った私は、そのサイトをクリックして内容を読んだ。それは、私たちが納めている税金が働かない公務員、「税金どろぼう」に奪われているというものであった。これを読んだ私は大きな衝撃を受けた。なぜなら、こんな「税金どろぼう」なんて人がいたのか、ということに加え、例として父の仕事である自衛官が挙げられていたからだ。

次の日、父にこの話をした。父は否定するのではないかと思っていた。しかし、「俺たちが税金どろぼうでいられることはいいことだ。」と父は言った。全く意味が分からなかった。税金どろぼうがいいこと？どうして？そう思っていた私に父は続けてこう言った。「俺たち自衛隊が出動しなくていいということは、災害や紛争のための派遣などがないということだ。つまり災害や紛争などが起こっていないということ。警察官や消防士だってそうじゃないか？」と。納得した。「警察官も消防士も事故や事件が起きるから必要になる。税金どろぼうになるのは出動がないとき。出動がないときは大変なこと、悲しいことが起きていないとき。だから、税金どろぼうはいいことなんじゃないか？」と思った。

税金どろぼうの父なんて、と思っていた。けれど、今では父が一生税金どろぼうで、父だけじゃなく警察官や消防士もずっと税金どろぼうでいてもいいんじゃないかと思うようになった。

税金は街の環境を守ったり人を守ったりするために使われている。税金は自分が稼いだお金を納めるから嫌だと思う人もいるかもしれない。税金どろぼうなんてもってのほかだと思う人だっていると思う。私も税金は有効活用して欲しいと思う。だけど、ちょっとだけ見方を変えて、この税金がたくさんの税金どろぼうに使われるのも悪くないんじゃないかと思う。

私たち中学生も、これからは自分で稼いだお金を税金として納めることが一層増すと思う。そんなとき、私はただ納税したり、嫌だなと思いながら納税するのではなく、こうしたい。この世界に生きるお互いを助けられるように、そして、この世界が「税金どろぼう」のいられる幸せな世界であるように、と願いを込めて納税したい。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川税務署長賞

税金ゼロの日本だったら

世田谷区立尾山台中学校　三学年　佐藤　千颯

「今日、四月一日から日本は税のかからない国になりました。」

朝起きてふとテレビを見るとそんなニュースが放送されていました。税金がかからないということは消費税がかからずに買い物ができるとウキウキしながら私は本屋へ千円札を持って雑誌を買いに行きました。普段ならお釣りは三百円ですが、税金のかからなくなった今は違います。六十四円も多くお釣りを渡されるようになりました。私は税金のかからないこれからの生活に胸を躍らせていました。

税金がかからなくなってから一週間ほど経ち、学年が一つ上がり、一学期が始まりました。学校へ行くと教科書が配布され、名前を書こうと裏表紙を見ると、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」の文字はなく、そのかわりに教科書それぞれに値段が書かれていました。一冊あたり五百円前後で、千円近くする教科書もありました。

税金がかからなくなってから日本は徐々に壊れていきました。具体的には、病気や怪我で救急車を呼ぶとお金がかかるため、すぐに病院に行かなければならない緊急の場合でも、お金のことを考えて救急車を呼ばず手遅れになってしまう人が増えたり、警察を呼ぶことにもお金がかかってしまうため、事件や事故が発生してもお金がかかることをためらって通報する人が急激に減り、事件や事故が多発するようになり、治安が悪くなってしまいました。徐々に壊れていく日本に恐怖心を抱きながら私は眠りにつくことにしました。

「速報です。政府は先ほど、税金のかかる国に戻すと発表しました。」

翌朝、テレビを見るとこのようなニュースが放送されていました。昨日までほとんど聞こえなかった救急車や消防車、パトカーのサイレンの音が街中に響き渡るようになりました。元の世界に戻ったことに安心感を感じ、私は四月一日と同じように千円札を持って本屋へ雑誌を買いに行きました。この前買った雑誌の最新号を手に取り、レジに向かいました。今日のお釣りは三百円です。この前より六十四円少ないですが、この「消費税」も日本を支えている大きな柱となっています。私は日本の安定に貢献したような気がして誇らしい気持ちになりました。

初めは税金のかからない生活は払うお金が減り、充実したものになるとワクワクしていましたが、実際は違っていました。今回のこの出来事をきっかけに当たり前の日常を送るにはどれだけ「税金」という存在に支えられていたかを感じることができました。私も将来、仕事をするようになったらしっかりと税金を納めることの重要性を理解し、貢献したいと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川税務署長賞

当たり前に感謝

世田谷区立玉川中学校　三学年　古山　芽衣

税の使われ方についてじっくり考えたことがある人はどれだけいるのだろうか。ちゃんとした使われ方を知らないのに「増税反対」「なぜこんなに税金を払う必要があるのか」などと言っている人は私を含めて多いのではないか。たしかに、実際に働いているというわけでもないから税金をとられている、という意識は少ない。例えば、クイズで税金の使われ方について問われたら答えられると思う。しかし、いざ日常生活では税金によって成り立っているものに目を向けていない。これは普段、税金について考えていない証拠である。

私が税金の使われ方を実感したのは小学生の頃、母と病院に行った時のことだ。会計の際、前の大人はお金を払っていたのに、私は「診察券をお返しします。」としか言われなかった。なぜ自分はお金を払わなくて良いのか疑問に思い、母に尋ねてみた。すると母は、「中学生までは医療費は無料なんだよ。」と教えてくれた。「無料？」と驚いた私に母は「税金によって賄われているんだよ。」と言った。後になって詳しく調べてみると、これは「子ども医療費助成制度」と呼ばれるもので、子育てにかかる経済負担の軽減を図るため、市町村が子どもの入院・通院ともに保険診療分の自己負担額を全額助成してくれる制度であることを知った。「地方交付税」という、地方自治体間の格差を調整し、そこに住む住民が安心して安全に暮らせるようにすることを目的としている税金が使われている。ただ医療費が無料なのではなく、日々多くの人が働き、支払ってくれている税金の支えがあってこそのものだ。私の住んでいる地域では、今ではこの子ども医療費助成制度は対象が高校生までに延長された。それによって家計が厳しく、病院に行きたくても行けなかったとしても安心して健康に過ごすことができるようになる人が増える。多くの命が助かる。税金の力によって豊かな暮らしが守られる。子供が無料で診察してもらえることは決して当たり前のことではない。そう気付かされた。

税金に支えられている私は三年後には成人し、大人の仲間入りだ。今、私が元気に過ごせている恩返しとして、今度は大人になった私が、子供たちのことを納税という面で支える一員になりたい。身近なところから社会に貢献できると思うと嬉しくなる。社会への貢献の仕方は人それぞれだ。その中でも、私は一人の納税者として人々が快適に暮らせるように少しでもサポートしたい。

目を向けなければ気づけない税金は、実は身近ないろいろなところで私たちの生活に関わっている。この一瞬も誰かが税金によって助けられている。税金が人々に豊かさを与えるものならば、私は喜んで納税する。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄組合連合会　会長最優秀賞

ふるさと納税が人々の暮らしに与える影響

聖ドミニコ学園中学校　三学年　湯本　結衣

ふるさと納税は、様々な返礼品があり一見良いイメージが多いが、税収が減少してしまいその地域の人々の暮らしに大きな影響を及ぼすことが懸念されているという。そこで私は、ふるさと納税が人々の暮らしに与える影響について取り上げ、調べてみた。

まず、ふるさと納税について。過疎などの理由で税収が減少している地域と都市部との地域の間での格差をなくすことを目的として作られた。本来住んでいる自治体に納めるはずの税金を他の自治体に寄附することで、住民税（その地域の住民が各地域で必要となる費用を分担すること）や所得税（会社からもらう給料などにかかる税金のこと）が控除される仕組みになっている。控除とは「一定の金額を差し引く」という意味、大きく分けて「所得控除」と「税額控除」という二つになる。

次に、ふるさと納税が人々の暮らしに与える影響について、私の住んでいる世田谷区を例とした。

世田谷区では、年々ふるさと納税を利用し他の自治体に寄附した影響で税収が減少している。二〇二〇年から二〇二三年の間だけでも減収額は五六億円、七〇億円、八七億円、九九億円、と毎年一〇億円以上も増加している。このような減収額の増加はその地域の住民の暮らしに直接影響する。例えば、予算が足りず学校の改築工事が二年以上延期されていたり、道路の補修工事がまだできていない場所が区内に何か所もあったりするなどだ。真っ先に影響を受けることは、支出の大きい学校の改築工事、老朽化した児童館または保育園や幼稚園の建て替えなどの建物に関係することだ。このようなことに対し、区長は「もし約一〇〇億円の税収減がなかったら少子高齢化対策などこれからの社会に特に必要な財源になるので、区民がふるさと納税を考えるなら半額は世田谷区に寄付してほしい。」と呼び掛けている。

今回調べたことで、今まで自分の考えていたふるさと納税へのイメージが大きく変わった。私はふるさと納税を利用したことはなく、知っていることといえば返礼品が貰えるということぐらいだった。調べて、一部の地域ではふるさと納税による影響があることを知ったけれど、影響は過疎などが起きてしまい、さらにふるさと納税でも寄附が集まらなかった地域だけだと思っていた。なので、自分の住んでいる世田谷区という身近な場所で暮らしへの影響が起きていることに驚いた。

将来、自分で税金を払うようになりふるさと納税を利用する時は、返礼品に関係なく自分の住んでいる地域や税収が減ってしまっている地域に寄付をしようと思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

世田谷都税事務所長賞

あしたをつくる税金

世田谷区立深沢中学校　三学年　柴宮　航

僕たち中学生が身近に意識する税として消費税がある。今までは、納税に対しての「払わなければいけない」という認識から、「税なんてかけずにそのままの値段で売れば簡単じゃないか」などと考えていた。何のための納税なのか、それをよく理解していなかったのだ。しかし、税金について色々と調べていくうちに、税金は僕たちの生活に必要不可欠なものであると感じてきた。

僕たち国民が納める税金は、社会資本の整備や公共サービスの提供に使われている。これらは豊かな国民生活の土台となるものだ。蛇口をひねったら出てくる水道水、いつも歩いている道路、いつも通っている学校、勉強に必要な教科書、怪我などしたらすぐに診てもらえる病院。日々当たり前のように安心して過ごせている毎日も、税金がなければ成り立たないものなのだ。

この事実を知って僕は、税金は「払わなければならないもの」ではなく、「僕たち自身の生活を豊かにするもの」という認識が正しいのだと感じた。

日本はよく、治安が良い国だと言われる。確かにその通りだと思うが、その原因は何だろうか。法律が関係しているのは明らかだが、そのほかにも原因があるのではと思い、税率との関係を調べてみた。すると、日本の他にもアイスランドやデンマークなど治安の良い北欧の国々の税率の高さは、世界的に見て上位にあることが分かった。つまり、税率が高い国は比較的治安が良い傾向があるのだ。このことからもわかる通り、納税は僕たちの暮らしを安心で豊かなものにするために欠かせないものなのだ。

今、少子高齢化問題の影響で、納税をする一人一人の負担が大きくなりつつある。納税をする人の割合よりも、福祉サービスなどを受ける人の割合が増えているのだ。これから先、増税も考えられるだろう。もしそうなれば、不満を抱く国民も数多く出てくるのではないかと思う。しかし、納税を「今、政府に払わなければならないもの」として考えるのではなく「未来の、自分たちの豊かな生活に対して払うもの」として考えてみれば、納税に対しての印象が大きく変わるのではないだろうか。

納税は未来をつくる架け橋のようなものだ。今の僕たちを、未来のより良い社会へと繋いでくれる。僕たちは、納税の意義をよく理解し、未来への架け橋を地道に創り上げていくことが大切だと思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

世田谷区長賞

高齢者の社会参加で税収を増やす

世田谷区立瀬田中学校　三学年　佐伯　亮祐

現在、日本は「少子高齢化社会」と言われている。二〇二一年の合計特殊出生率は1．30である。そして、全人口の高齢者が占める割合は二〇二〇年で28．6％であり、二〇三〇年には30％を超えると言われている。子どもが減っていき、高齢者が増えていくということを意味する。二〇二二年の国の歳出のうち、一番使っているお金が年金などに充てられる社会保障費である。普通に考えれば、税金を払ってくれる人が減り、税金を使う人が増え、財政は破綻し、年金制度も崩壊する可能性がある。

そこで、高齢者を一概に弱者と見なすのはやめて、積極的に社会参加を促すことで、高齢者であっても必ずしも「税金を使う人」ではなく、「税を払う人」にもなってもらうことを考えていくべきではないか。たとえば、高齢者が所有していた自家用車を、免許返納の際に献上していただいたり、売られる際にその内の何％かをいただく、それを年金資金に充てていく。同じように、伴侶を亡くした高齢者が広すぎる家で暮らしている場合は、その家を献上していただき、一人暮らしに見合う住宅を国や地方自治体が提供する。そして、家を売って年金資金に充てていく。このようなことを高齢者に対し、「社会参加」と銘打って理解を求めていくのである。さらに、今後働く人口が減っていくので、外国人やＡＩなどが期待されているが、元気な高齢者にはもっと働いてもらえばいいと思う。今までたくさん働いてきた高齢者は、定年を過ぎたら余暇を過ごしたいはずだと決めつけるのはまちがいである。のんびり趣味や旅行などを楽しみたい高齢者もいるだろうが、「社会の役に立ちたい」「自分が生きていることで誰かのプラスになりたい」と思っている高齢者もたくさんいるはずである。高齢者を「人生の先輩」と位置付けて、「より良い社会のために力を貸してください」というメッセージを送って、その高齢者の心と体に無理のない範囲で、仕事をしてもらうのである。働いてもらえば所得税が発生するし、収入が増えれば消費も増え、消費税も増えるだろう。

いっそのこと、65歳以上の高齢者に「年齢デノミ」を行ったらどうだろう。年齢デノミとは僕が考えた造語であるが、現在の実年齢を8割に変更して、人生を心機一転、再スタートするのである。65歳であれば52歳、80歳であれば64歳、90歳であれば72歳になる。そうすれば、高齢者の自分に対する印象が変わり、「まだまだ元気だぞ。仕事など、いろいろなことを精力的に頑張るぞ。」となるかもしれない。まちがいなく、税収は増えるであろう。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

東京税理士会玉川支部長賞

税の在り方を見出すことの大切さ

東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　高谷　奈央

税とは何だろうか。一言に税と言っても種類は様々だが、私にとって最も身近な税といえば消費税が思い浮かぶ。私は今まで何か物を買うとき、何の疑問も持たずに消費税の含まれた税込価格の代金を支払っていた。もちろん消費税を払うというのは当然のことだろうが、自分が大人になって自分で稼いだお金で生活するようになる前に、私達が何のために税を払っているのかを知り、国が税金を有効に使えるよう、私自身が税に関心を持つべきだと思い、税の意義や使われ方を調べることにした。

まずは消費税だ。消費税とは、商品の販売やサービスの提供等に対してかかる税金で、負担するのは消費者である。消費税率一％には約二兆円の価値があり、実際二千十八年に日本で八％～十％へと消費税率の引き上げが行われた時から二年間の消費税税収は、約四兆円も増加したそうだ。そしてこの消費税は国の一年間の収入である「歳入」のうち約二割を占めている。消費税の他には、公債金や所得税、酒税などの間接税が多くの割合を占める。これらの歳入は、様々なことに有効に活用される。国の一年間の支出、「歳出」は国民から得た大切な税金を有意義に使うために、国会で予算案を話し合った上で活用方法が決められている。歳出として具体的に大きな割合を占めるのは社会保障関係費だ。年金給付費や医療給付費、介護費用、子育て支援を目的とした少子化対策費など、税金により暮らしやすさや生活の安心が守られている。

しかし、その税金による保障も近年問題点が増えてきている。例えば少子高齢化問題。近年の日本は高齢者が増えている反面、子供の数が減少傾向にある。この現状が年金の問題等において大きな影響を与えているのだ。現在日本では、現役世代が高齢者世代の年金保険料を払うという方針がとられているが、高齢化が進む日本でこの方針をとり続けた場合、二千六十年には一人の高齢者を実質一・三人の現役世代が支えるようになると予想されている。日本の税金に関する問題はこれだけではない。経済成長の停滞、いわゆるデフレや、日本の公債依存度の高さゆえの財政赤字など、改善していかなければならない課題は山ほどある。だがそれは簡単なことではないだろう。

しかし、今こそ国全体で力を合わせて変化していくときなのではないだろうか。今を生きる人々とこれからの未来を作っていく新たな世代が安心して生活できる幸せな社会を作るため、私達が『税』というものについて関心を持ち、「税の在り方」を考えることが必要なのだ。かつての日本が様々な危機的な出来事を乗り越え、発展してきたように、改善されたよりよい社会を作ることはきっと実現する。そのために、私達国民が自覚を持って現状と向き合い、税の持つ本来の意義が見出される社会になる日が来るといいなと思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

九十一万人の応援（エール）

世田谷区立用賀中学校　三学年　青木　花音

「ぐきっ」体重をのせた膝が変な方向に曲がった。痛い。よくない予感がする。二週間後にバレエの発表会を控え、自主練習をしていた夜のことだった。気付いた母が急いで氷のうを用意してくれた。膝をアイシングしながら、この数ヶ月の出来事が頭を巡る。半年前、配役が発表され、先輩とダブルキャストで主役を務めると分かったときは「まさか」という思いだった。百五十人もが出演する舞台の主役は、私には荷が重すぎるように思えた。でも先生は「あなたにならできる。」と力強く言って下さった。それからは夢中になって練習した。出番以外のリハーサルにも出て他の人の役の振り付けも全て覚えた。小さい子達のレッスンにも先生の補助役として毎日参加した。クラスがない日は自主練習をした――。もし、発表会に出られなくなったら。そう思うと涙がぽろぽろこぼれた。

翌朝、車で病院に向かった。問診とレントゲンの結果「膝の筋挫傷」と診断された。お医者さんに電気治療とマッサージ、テーピングをしてもらった。最後に「大丈夫。発表会には間に合うよ。」と言ってもらって、気持ちがホッと落ち着いた。会計時、支払いが発生しなかったので不思議に思い、母に「タダなの？」と小声で尋ねた。もちろん医療費は発生していること、保険証と子ども医療証を見せながら、保険料と区からの医療費補助のおかげで支払いが発生しなかったことを教えてくれた。私は比較的体が丈夫で、特に中学生になってからは病院を受診することがなかったため、医療費助成のことを意識したこともなかったのだ。帰宅後ネットで調べてみると、医療費助成は自治体によって所得制限の有無が違ったり、「何歳まで」という対象年齢もまちまちだと分かった。そして、助成金の財源は区民の納める税金ということも知った。それまで税金は道路や公共施設の建設に使われているというイメージで、私にとっては少し距離のあるものだったが、より身近で毎日の生活や私の頑張っていることを支え、応援してくれているものなのだと実感した。同じ世田谷区に住む九十一万人超の住民は、たとえ互いが直接の知り合いでなくても、税金というシステムで確かにつながっている。税金は温かなエールに感じられた。

発表会当日。舞台を終えて観客の大きな拍手を浴びながら私は、安堵と、充実感と、今まで感じたことのない感謝の気持ちに包まれていた。バレエの先生、共に練習を重ねて舞台を創りあげた仲間達、美術や照明のスタッフさん、いつもサポートしてくれる家族、観に来てくれた人達、怪我を診て下さったお医者さん。そして税金を納めて下さっている顔も知らないたくさんの人達。ありがとう、ありがとうございます。心の中でそっとつぶやいた。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

祖母の退院

世田谷区立用賀中学校　三学年　伊藤　有香

祖母の退院の日が決まった。やっと長い入院から解放される日が来るのだ。私たち家族は、祖母の退院を喜んで準備を始めた。母は、生活支援コーディネーターと相談して、介護用ベッドと車いすはレンタルで、介護用トイレは購入することに決めた。それらが届くのは、退院の前日の予定で、私は本当に間に合うのか心配になった。

祖母の家に介護用品のパンフレットが置いてあったので、手に取って少し見てみた。色々な商品が掲載されており、それぞれ値段が付いていた。例えば、レンタルなのに一ヶ月三万円かかるものもあり、思っていたより高くてびっくりした。介護用トイレに至っては八万円もすることにまた驚いた。その後、母の話を聞くと、介護用ベッドはレンタル代金の一割負担なので一ヶ月三千円で借りられることが分かった。また、介護用トイレは、全額負担で購入した後に九割分が戻ってくる。私はその話を聞いたときに、残りの九割は誰が払っているのだろうと思った。調べてみると、それは税金からだった。

私は今まで、税金は払うものというイメージがあった。また、頑張って働いた収入から税金をとられ過ぎていると、税金の量に反対する人もいる。さらに、少子高齢化が原因で、一人の老人を支えている人が二人以下だと言われている。このような中、私は、高齢者のために多くの税金を使い過ぎているのではないかと思っていた。しかし、このような場に立ち合ってみると、高齢者のために、税金はなくてはならないものなのだと分かった。

予定通り、退院前日に全て届いた。ベッドなどをセッティングしてもらい、ベッドが動くかどうかの確認をしたり、柵の位置の微調整をしたりした。

準備も整い、心をはずませながら祖母を迎えに行った。祖母は自分の家に帰ってきたことをとても喜んでいた。帰ってきた祖母は、いつも自分が座っているいすに座り、まわりに置いてあるメモ帳や写真、ふくろうの置物などを一つずつ丁寧に確認していた。ゆっくりと確認し終わると、昨日届いたベッドに向かい、腰を掛けた。とても立派なベッドが届いたことに驚いていた。高価なものではないかと心配していたが、母が、一割負担で借りられるので1ヶ月三千円しかかからないと説明していた。「税金はありがたいね。」と祖母は言っていた。私もそのように思った。

やはり、税金は人間らしく豊かな生活を送ることができる、大切なものだと実感した。税金があるから、祖母を家に迎えることができた。私たちも祖母もみんな嬉しそうだ。明日は、私が車いすを押して、祖母と散歩に行きたいと思った。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

くらしを助けるふるさと納税

世田谷区立砧南中学校　三学年　岡　みどり

夏休みのある日、ニュースを見ていると、また災害のニュースが流れてきました。今年の夏は、災害が各地で数多く発生したな。私はふと小学六年生までに住んでいた岡山の事を思い出しました。私が四年生の頃、岡山県倉敷市真備地区を豪雨が襲いました。毎日ヘリコプターが空に旋回するのと同時に、テレビでは多くの被害者の数が放送され続けていました。

私は、中学一年生から東京へ引っ越してきて、不思議と岡山へ対する思いが強くなりました。友達がいるから、というのもありますが、それだけではないような気がします。私は倉敷市のホームページを開いてみました。そこには「ふるさと納税の使い道→選べる使い道と快適なくらしを守るまち倉敷」と書かれていました。「被災地の復興ってまだ完全じゃないよね、ふるさと納税は未成年の私でもできるのかな。」私は両親がふるさと納税をしていることは知っていましたが、詳しい内容について知るのは初めてでした。これらを機に調べてみると、未成年でも行うことはできると記載されていました。ただ、収入がないため控除を受けられず、全額自己負担になってしまうとのことでした。学生の私にとってはかなりの負担です。私は自分が無理をしてまでふるさと納税をするのは少し違う気がするな、自分のできる範囲で協力したいと思い、両親に相談してみました。二人は私の考えに賛同してくれ、両親の扶養に入っている私はふるさと納税を倉敷市にしてほしいとお願いしました。ホームページを見てみると、様々な返礼品の一覧があり、私が食べたいものや使ってみたいものがたくさんありました。

実際にホームページの最初には「ワンストップ特例制度」という言葉が出てきました。調べると、わざわざ確定申告をしなくても良いとのことでした。それぞれの自治体へ「ワンストップ特例制度」を選択し申し込むと、自治体から申請に必要な書類が届きます。その用紙に記入し、個人番号の確認ができる書類と本人確認ができる書類を同封して郵送するだけとのことでした。わざわざ税務署まで確定申告しに行かなくても、インターネットで手続きができることを知ったら、もっと多くの人がふるさと納税に関心を持ってくれ、納税する人が増えると思います。

最初に述べた、引っ越してきた後の岡山に対する気持ちとは、もしかすると私にとってのふるさとが岡山だからなのかなと思いました。遠い場所だから何もできないのではなく、現代の社会だからこその便利なツールを使って、これからも自分のできる範囲でそれぞれの自治体を応援していきたいと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

税金が持つ役割

世田谷区立玉川中学校　三学年　荻野　壮太

以前、外国には特殊な税金があると社会科の授業で聞きました。アメリカにはソーダ税というものがあるそうです。ソーダ税は、肥満や虫歯の原因になるソーダにかける税金です。ポテトチップス税というのもあります。こちらは国民の肥満防止のために導入されたそうです。ブルガリアには独身税が昔はありました。結婚して出生率を増やすために導入された税金だそうです。

調べを進めると関税という言葉に行きつきました。関税は外国から輸入される品物に対して課される税金です。関税がなくなると、日本の同じ品物より値段の安い外国産の品物ばかりが買われてしまい、その分野の国内産業が崩壊します。例としては綿花です。明治二九年の日本では、約十万ヘクタールの綿花の作付がありましたが、関税を撤廃したところ外国産に押されて急激に減少し、昭和十年の作付けはわずか六三二ヘクタールでした。

僕が知っている税金のイメージは、学校などの公共施設を建てたり、社会保障費のサポートをするなど、みんなで出し合い支えあうようなイメージばかりがありました。しかし、国の方向性を示したり国民を導いたりする側面も税金にはある、と僕は思いました。

以上を踏まえ、税金からは国の意思が見えるのではないかと考えました。そこで、現在の歳入・歳出について見直してみました。すると気づいたことがありました。

日本の歳出の推移を調べてみると、二〇一九年に急激に増加していました。これは、コロナに理由があると思います。当時を振り返ると、日本は大変な状況でした。そのとき、国はできる全てをしたと思います。国民や飲食店への給付をし、ＧＯＴＯで観光業を支え、経済を守りました。無料のＰＣＲ検査や治療など感染対策をしました。

ややコロナが落ち着いた今年の夏、帰省やインバウンドなど以前の風景が日本に戻りました。コロナで潰れずに済んだ日本は。訪れる人たちを笑顔で迎えることができています。経済が回りはじめ、一昨日、去年と過去最高の税収を更新しました。いろいろ無理をした部分もあるようで、ネットには批判も見かけましたが、なんとか乗り切って、次は立ち上がるだけといったところです。

国は、国民をコロナから守る、という意思を税金の使い方で見せたように思います。それを国ができたのは、国民が税金を納めて国に託したからこそ、と言えないでしょうか。僕には、税金を納める国民への国への信頼と、それに応える国の意思が見えました。

いろいろな困ったことが世界では起きています。これからも起きるでしょう。そんなとき、きちんと国が対応できれば、これからも私たちは穏やかに生活していけます。そう思うと、税金の果たす役割は大きいと思います。この国で幸せになるため、この国を守るため、僕も税金を納めていこうと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

税金は七変化

世田谷区立深沢中学校　三学年　篠原　知花

中学生の私は消費税の十パーセントを負担に感じる。私の買い物の十パーセントですら負担に感じるのだから、もっと沢山の納税をしている大人はきっと何倍もの負担を感じているのだろう。それでもなお、税金を払うのはみんながお互いに支え合いより良い社会を作っていくためだ。

東南の国、カンボジア。両親が昔仕事の関係で出張に行った国だ。出張から帰ってきた両親は日本とカンボジアとの寒暖差で若干体調を崩していた。カンボジアがどこにあるのかを知らなかった私にとっては国を跨いだ寒暖差で体調を崩すことが驚きだったのだが、それ以上に両親の話を聞いて驚いたことがあった。上下水道が完備されていないカンボジアでは、日本のように水道水が飲めなかったという。そのため水を飲む時は自動販売機で売られている水を買わなければならなかったし、お店で氷が入っている飲み物は飲めなかった。水道水を飲むのが当たり前だった私にとってこのことは到底信じがたいものだった。

では、どうして日本では水道水が飲めるのだろうか。それは、私たちが納めた税金で水道、道路などのインフラの設備を行っているからだ。税は一方的に納めるだけの行為ではなく、大きな目で見ると社会全体を豊かにするための行為なのだと思う。中学生の私は学校教育、部活、遊びの場など自身を育むものが沢山与えられている。社会の支えがなければ、私を取り巻く豊かな環境は存在しないはずだ。私たち子ども一人ひとりの成長が、将来の社会を豊かにすることに繋がると信じてもらっているように感じる。それとともになんだか自分の未来を信じて投資してもらっている。そんな気持ちになった。

他にも税金が使われている一例として、医療費が挙げられる。以前私が指を骨折して病院に行ったとき、無料で治療を受けた。ピアノを習っている私にとって指の骨折は非常に痛手で、なるべく早く完治したい私は病院に助けられたのだ。私たちが怪我をしたとき、病気になったとき、当たり前のように病院に行く。私たちにとってこの行為は当たり前でも、医療費を医療保険が負担している米国などでは病気になっても簡単に病院を訪れることをしない。私たちが気軽に病院に行けるのは医療費を税金が負担しているからだ。税金は大人たちからの投資だけでなく、私たちの命を助ける医療活動を支援するサポーターでもあるのだと思う。税金は私たちを支える投資やサポーターなどに変身しているのだ。

納税というと一方的なニュアンスが大きいけれど、取られるという意識ではなく支え合う・分かち合うという関係に気付くべきなのではないか。税金は色々な姿になり得る。納税という行為をプラスに捉えたら負担を感じることは減るはずだ。そうした未来に、環境的にも私たちの精神的にも豊かな社会が広がっているのではないだろうか。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

地域の架け橋ふるさと納税

世田谷区立八幡中学校　三学年　西櫻　彩世

多くの人がふるさと納税に対して持つイメージは、良いものだろうか？悪いものだろうか？ニュースなどの報道から、お金持ちの人が返礼品を目当てに使う少しズルいと思われてしまう制度なのだろうか。だが実際に調べてみると、素晴らしい制度であることを初めて知った。

まず、「ふるさと」と名前が付くが、生まれ故郷だけでなく、自分が応援したい地域に税金として寄附出来ることである。災害への寄附もできる。例えば令和２年の熊本県の震災と豪雨の被害や、今年の台風の洪水被害で苦しんだ九州地方への寄附もふるさと納税から多く集まったそうだ。

また寄附先を選ぶことで、税金の使われ方を自分で選択することもできる。広島県神石高原町では、保健所での犬猫の殺処分をなくすためにふるさと納税の寄附を募っている。元保護犬を飼っている私としては、心の底から応援したい活動であり、この活動を行っている広島県神石高原町には行ったことはないが、行ってみたい町の一つになった。他にも私の住んでいる世田谷区ではコロナ対策が大変な二〇二〇年に対策支援金の寄附を募り、両親はその活動に賛同してふるさと納税を活用したそうだ。

先程の犬猫の保護活動のように、地域の活動を宣伝する効果もあるが、返礼品によってその地域の特産品を知ることもできる。私は山梨県がブドウの生産量が日本一であることは地理で学んで知っていたが、その他にも長野県、山形県、岡山県もブドウの生産量が多いことが返礼品のリストを見ながら分かった。このように地域の特産品やカを入れている活動を宣伝して寄附を募る自治体が、今までに関わりのかかった人達にその地域を知ってもらい更に身近に感じてもらう。また自治体側もより自分達の住む地域のいいところを再確認し、どうアピールするかを真剣に考える、というとてもいい制度だと思う。

ふるさと納税は、私達納税者が税金の使う地域や目的を選べ、自治体は地域の魅力を広く発信できる制度であり、住んでいる地域が違くても多くの自治体を繋げる架け橋になるのではないか。

ただ、返礼品の競争が過熱し過ぎた結果、ふるさと納税のイメージが悪いものになってしまっていたり、住んでいる地域の税金が不足する可能性もある問題点などもあるが、自治体も税金の使い方を見直すきっかけになればいいと思う。税金を国民自身が選択でき直接参加できるこの制度を続けて欲しいと強く願う。

最後にふるさと納税を通して今まで考えなかった税金について興味を持つことができ、これからも勉強していきたいと思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

税でみる世界

世田谷区立尾山台中学校　三学年　橋本　優衣佳

税がある理由。今回はこのことについて、日本と世界をみていきたい。

税とは、国民みんなから集めたお金のこと。この国に住んで生活しているのであれば誰もが払わなければいけないものだ。もちろんこのお金は、誰かの私用ではなく国の社会問題を解決するために使われる。最近の例を挙げると、コロナの影響で収入が減ってしまった人のための給付金や、少子高齢化が進む社会での高齢者への年金など、一定の人々がより快適に暮らすための制度で使われることが多い。では、同じ世界の国に税の違いはあるのだろうか。

まずは日本。商品・製品の販売やサービスの提供などの取引に対して公平に課税され、中学生の私にも身近な消費税。働いて得た給料や自分で商売を行い稼いだ収入にかかる所得税。法人が事業活動で得た収入にかかる法人税。この三つが主な国税だ。現在日本には、約五十種類の税金がある。中には、入浴税などの温泉大国ならではの税金もある。

次に世界をみていきたい。

ハンガリーでは、肥満防止対策としてポテトチップス税がある。それだけでなく、ハンガリーは驚きの税率二十七％という世界トップの消費税の高さだ。

それに対して、ブルネイという国では消費税・所得税がない。どうしてこれらの税金がなくて国が成り立つのだろうか。ブルネイは豊かな自然と資源に恵まれており。石油・天然ガスが豊富に採れる。この二つの資源の輸出が国の大きな収入となり、国民に税金を課さなくても成り立つことができる。

このように世界には、面白い税金があったり、税率が大きく違ったりする。同じ“一つの国”といっても全く違うのである。

だが、共通点が二つある。一つ目は、その国の特徴が税にうつしだされているということだ。日本に入浴税があるのは日本が誇れる温泉文化または資源を守っていくため。ブルネイで消費税・所得税がないのは自然から得る資源が国の財政を支えることができるため。このように見ていくと、国の在り方をうつしだしているように思える。

二つ目は、一見国のために思われる税金は実は自分自身の生活のためになっているということ。ハンガリーを例に挙げると、国が肥満を防止したいがために税率を上げ収入を得ているようにみえる。でもその収入は、ハンガリー国民が心地よく暮らすための社会保障に還元されている。納めた税金が一周回って自分たちの平和な生活に返ってきているのである。

このように、税には国をうつしだし、国も国民もともに支える役割がある。私は、日本と日本に住んでいる全ての人々の生活、そして未来まで続く平和な社会を支えるお手伝いをしているという思いで、今もこれからもずっと税金を納め続ける。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　会長優秀賞

未来へ受け継ぐ税

東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　吉田　璃瑠

私は恥ずかしながら、税の勉強をするまで、税とは、所得の多い人ばかりに課せられる不平等なものであり、別に必要ないもの、ぐらいの認識しかありませんでした。しかし、税は本当に不必要なのでしょうか。

税金が無くなったらどうなるのかを調べてみました。まずは社会資本、公共サービス。道路や橋が壊れたまま放置されたり、修理した人から通行料を求められたり、何かのトラブルに巻き込まれたときに相談できなくなったり、警察官もいないので犯罪者が増えて治安が悪くなってしまいます。次に教育。私たちが使っている学校のイス、机、教科書。すべてが税金でまかなわれています。税金がなくなれば子供たちが安心して学べる環境を整えるための費用がなくなり、学校も成り立たなくなる恐れがあります。最後に所得の再分配。世の中を平等にするという役割を税は担っています。所得税は、累進課税制度という所得の多い人ほど税率が高くなる、という方法で計算されています。このように、所得の再分配を行うことで所得の格差を少なくしています。税がなく、さらに所得の格差が出てきたら、良い社会は作れるのでしょうか。このように、税がなくなれば社会が成り立たなくなってしまいます。税は、私たちの「あたりまえを支えること」なのです。

ところで、時々こんな言葉を聞きます。「税金が高すぎる。なんで政府はこんなに税金を取るんだ。もっと安くしろよ。」少し前までは、私もその言葉に賛成していたかもしれません。しかし、今はそんな言葉を聞くと税の大切さを伝えたくなります。税は「思いやり」であると思うからです。例えば、新型コロナウイルス対策で、飲食店が休業した場合、お金が支払われる制度がありましたが、これは国民から集めた税金を、今困っている人に与える、という「思いやり」だと思います。社会福祉も同じです。貧しくて生活ができない人に、生活ができるような環境を与えるために税を使うことも、少し生活による余裕がある人からの「思いやり」だと考えられます。

まとめると、税は「思いやり」であり、「当たり前を支えること」でもあります。私は税について深く学ぶまで、税にこのような大切な役割があることを知りませんでした。きっとこれは私だけではなく、子供も大人もまだ、税について深く理解していないのではないでしょうか。だから、税を軽んじる言葉が出てきてしまう。まずは税の本質である「思いやり」と「当たり前を支えること」を知らないといけません。そして、最も知らなければならないのは、未来を作る私たち子供です。未来でも、社会を作る中心である税を守っていくために、そしてより多くの人に税の本質を知ってもらうために、私たち子供は税について深く学び、学びを生かした税制度、租税教育、そして社会を作りたいと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

サイレンと税金

世田谷区立玉川中学校　三学年　有坂　日夏乃

「ピーポーピーポー…」最近、サイレンの音をよく耳にする。私の家の近くには消防署があるため、昼も夜も関係なく、家の前を救急車や消防車などの救急車両が行き来している。消防の仕事には税金が使われているので、出動回数が多ければ多いほど、税金が正しく使われているのかどうか、心配になった。また、看護師をしている母に話を聞くと、救急車をタクシー代わりにして病院に来る人も増えているそうで、そんなことをしてもよいのだろうか…と疑問に感じた。

そこで、令和四年の東京消防庁の救急出動件数を調べてみると八七二，〇七五件で、救急業務を開始した昭和十一年以来、過去最多とのことだった。また、救急車の一回あたりの出動には、約四五，〇〇〇円かかっていることを知った。この二つの数字をかけて計算すると、東京都だけでも一年間に約三九二億円の税金が使われていることになる。全ての出動の中で、本当に必要な出動はどれぐらいなのか、近くの消防署の人にインタビューをしてみた。すると「半分くらいは緊急ではない通報や出動」とのことだった。これらから、緊急ではない出動がなくなれば三九二億円の半分、約一九六億円の税金を別の使い方にできる可能性があると思う。

では、この税金を何に使うべきなのか。私は「みんなが安心して暮らせる街づくり」に使うべきだと考える。例えば、住宅火災の割合が高いと言われる高齢者が住む家の防火・防災対策や、高齢者が孤立しないような福祉の充実など、事故や災害そのものが起きにくい街づくりに税金を使って欲しい。そうすることで、救急車や消防車の不用な出動自体を減らすことにつながり、本当に必要とする人が救急車を使う事が出来るという良いサイクルが生まれ、たくさんの命を救う事もできる。

税金について、私はこれまで自分とはあまり関係のないものだと思っていた。しかし今回、税金の使い方を調べてみて、教科書や学校の設備など自分に直接関係するところにも多く使われていると知り、身近なものに感じることができた。増え続けている公債金が課題となっている今、また、少子高齢化により税金が集まりにくくなると考えられる将来の日本では「税金による収入を増やすこと」よりも、「税金の使い方のバランスを見直す」ことがより大切だと感じた。「ピーポーピーポー…」というサイレンの音よりも「アッハッハッハー！」という、子どもやおじいちゃん・おばあちゃんの元気な笑い声がたくさん聞こえる社会づくりに税金が使われていくことを、私は願いたい。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

正しい使い道

東京学芸大学附属世田谷中学校　三学年　安藤　瑞月

ある日、私の家で母が旅行から帰ってきて美しい桃を2箱買ってきました。その二日後、家に桃5キロが届きました。私はなぜ届いたのか意味が分からなく、母に聞いてみることにしました。母曰くふるさと納税の返礼品で届いたと言っていました。

そこで私は、今までふるさと納税という名前は知っていたがあまり実態は知らなかったので調べてみることにしました。総務省のホームページには「実際には、都道府県、市区町村への寄附です。一般的に自治体に寄附をする場合には、確定申告を行うことで、その寄付金額の一部が所得税及び住民税から控除されます。ですが、ふるさと納税では原則として自己負担額の2千円を除いた全額が控除の対象となります。」と書いてありました。そこで私は話に出てきた税金について興味を持ち、消費税や所得税、住民税などの税は一体どんなものか、何に使われているのかを調べてみることにしました。

調べてみると所得税は個人の所得にかかる税金のことで、超累進課税制度という収入に応じて税率が高くなるという制度が採られていました。また累進課税制度の良いところはより多く負担できる人が負担し、収入が違うから負担する量を変える垂直的公平という点に配慮しているという点です。一方、消費税は一律一〇%と決まっています。しかし一律にしてしまうと所得の低い人ほど負担が大きくなってしまうため、生きていくのに必要な食料品には軽減税率制度というものが採られているということが分かりました。

では一体何に税金は使われているのか。調べてみると税金が一番多く使われているのは社会保障費でした。例えば病院。私たち子どもは当たり前のように病院に行って医療を受けています。しかしそれは税金を払っているおかげで、本来は高いお金を払わなければいけないものを無料で受けることができていることを知りました。また、コロナが流行した時のワクチンが無料になっていたのも税金を払っていたからでした。そのほかにも、医療という点だけでなく学校もそうでした。給食費は払う必要がありますが、公立の場合、その他勉強をするのにお金はかかりません。学校のパソコン、教室の椅子、机、体育で使うボール、理科の実験道具などの備品も税金から賄っていました。私が不思議だった地域の公共体育館利用料が安いのも税金のおかげでした。

税金はただ国が取っていくのではなく、学校や医療などの生きていくのに必要なところでしっかりと国民へ還元されていることが分かりました。ニュースで国会議員がパリに行った、不正利用などのたくさんの悪いことを聞きますが、今後の未来を担う子どもや様々な人へ医療などしっかりした形で使われていったらいいなと思いました。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

未来への一票

世田谷区立東深沢中学校　三学年　宇田川　葵

私は税金のことについて考えたときに、子供にもっとお金を使うべきだと思いました。以前、ネットの記事などを見て、子供の貧困問題について知ったからです。日本はＯＥＣＤの加盟国の中で貧困率が最悪の水準にあり、子供の七人に一人が貧困だと知り、とても驚きました。税金という問題と向き合った時に誰もが一度は子供にもっとお金を使うべきと思ったことがあるはずなのに、なぜ様々な施策が実行されないのかが気になったので調べることにしました。

日本の社会の仕組みなどを決めているのは政治家で、その政治家を誰にするのかを決めているのは私たち国民です。そしてそれを決めることが出来るのは選挙です。選挙は十八歳以上の人が行くことが出来るのに、なぜか若い人たちは選挙に行きません。面倒くさい、自分事ではないからといって選挙に参加しない若い人が多いのです。さらに、選挙で投票している人の大半は高齢者の人です。そうすると沢山の票を集めて当選したい人は高齢者の方に向けての政策を打ち出します。それは介護施設を沢山作ったり、バス代を無料にしたりなどです。このようなサイクルの繰り返しではいつまで経っても少子高齢化の問題が解決しないのではないかと思いました。

例えば消費税が高い北欧の国などでは高い消費税を払う代わりに子供の教育費などが全て無償化されたりしています。このような国では子供の貧困率が低くなっています。

私はもっと税金を子供たちに使ってもらうために必要だと思うことが二つあります。一つ目は若い人たちが選挙に行くことです。若い人たちが選挙に行くことで、若い人たちに向けた政策が出されます。そうすることで子供にお金を使うべきだと考える人が増え、そのような意見が言えるようになるのではないかと思いました。二つ目は税金の使い方を変えることです。私は今、税金が無駄遣いされているのではないかと思っています。公共施設を充実させたりすることが悪いことだとは思いませんが、これからの社会を担っていく子供や若い人たちのためにもっと税金を使うべきだと思います。そうすることで子供を育てやすい環境ができ、少子高齢化の問題も解決方向に向かい、若い人たちが活躍することで経済がさらに回り、日本がより良い国になると思いました。

中学三年生の私に出来ることは少ないですが、十八歳になったら必ず選挙に行き、政党や政治家の方々の政策をきちんと見た上で、子供たちや若い人たち向けに税金を有意義に使ってくれそうな方に投票したいと考えます。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

税がつくる笑顔

世田谷区立砧南中学校　三学年　押田　絢音

「税とは何だろう。」そんな単純な疑問を抱いたのは小学生の頃。救急車を呼んでもお金がかからないのが当たり前だと思っていた私は、海外では救急車を呼ぶのにお金がかかると知り、驚いたことがきっかけだ。私は母になぜ日本の救急車はお金がかからないのかと聞いた。

母は

「税金が使われているからだよ。」

と教えてくれた。そこで初めて私は「税」に目を向けた。

税にもいろいろな種類がある。身近な「消費税」や「住民税」、「固定資産税」などだ。こうして集まった税金は、道路や橋の整備、病院、公園などの身近なものから、洪水、地震などの災害復旧などに使われている。つまり、税は私達の生活を形成しており、より豊かに過ごすためのものである。税は私達を支えている。今の生活が送れているのも税のおかげともいえるだろう。

私は本が好きだ。家の近くには図書館がある。少し足をのばせば私の周りにはたくさんの大きな図書館がある。私は本に囲まれながら、新たな学びを得ることができるこの環境に幸せを感じている。その図書館も税金で作られている。私の幸せな空間が税金でつくられている。私は税に感謝している。多くの人々が税に感謝する場面があっただろう。

しかし、わたしたちは税への認識が浅いのではないだろうか。税金をただの「出費」だと思っているのではないだろうか。確かに出費であることに間違いはない。私も実際に税に対し不安、不満を抱くことがあった。しかし、その出費は誰かを笑顔にしているだろう。税のおかげで私は今、学ぶことができ、安心して通学をし、楽しい日々を送れている。この当たり前を送れない人も世界にはいる。今、とても恵まれた環境にいる。当たり前なんて思うことがどれだけ幸福であるか。税は笑顔への投資であるとポジティブにとらえても良いのではないか。一人一人が「税」への認識を改めてみるのはどうだろうか。少しでいい。税に目を向けてみて欲しい。今をよりよくするきっかけが見つかるかもしれない。

私は「税」を学習することで「税」への認識が百八十度変わった。年齢を重ねることで納税すべきものは増えるだろう。時にはそれに不満を持つことがあるかもしれない。しかし、私は「税」に支えられてきた。将来、私は恩を返す番である。税を納めるという形で社会に貢献できたらと思う。恩を返す理由はいろいろあるけれど、一番の目的は、納税という間接的な方法ではあるが誰かが笑顔で楽しく暮らす支えになればよい。幸せを作れるのであればそれは本当の願いであることは決して変わらない。だから、私は納税の義務を果たそうと改めて思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

もしもの世界

世田谷区立東深沢中学校　三年生　鎌田　織彩

「税金を無くして、みなさんの生活を豊かにしましょう。」このフレーズは誰しも一度は聞いたことがあるだろう。私は初めてこの言葉を聞いたとき、「とてもいい案だな。税金が無くなれば、色んな物がもっと買えるようになるだろうな。」と軽く考えていた。それから二年が経った中三の夏、私の学校では「租税教室」が開かれた。私はそこで、税が私たちの暮らしを支え、生活のあらゆるところで深く関わっているということが学べた。そこで私は、税についての「もしも」を二つ考えてみた。

一つ目は、「もし、みんなが望むように消費税が無くなったら」についてだ。実際に、消費税がない国のデメリットを見てみても、物価が高いくらいしかなく、もはやメリットの方が多く感じられる。けれど日本は税金の多くを国の収入としているため、ほかの国と比べてデメリットが多いのではないかと私は考えた。例えば、私たちが日常でよく使っている公共交通機関などの公共サービス、医療、年金、福祉等の社会保障がなくなってしまう。そうなることで、道路の一部が壊れても整備されなくなり事故が多発する。また、事故を起こしたとしても、お金を払わないと救急車は来なく、入院中にかかった医療費が莫大にかかる。他にも、年金がなくなることで、老後の安定した生活が保障されず、人によっては老後も働かなくてはいけなくなるなど、多くのデメリットがある。これらのことから、安定した生活や健康で文化的な社会を実現するためには、やはり税金は欠かせない財源だということが分かる。

二つ目は、「もし、逆に税金が高くなったら」について。所得や資産が多い人ほど税率が高くなり税金を多く納める累進課税制度を利用し、貧富の格差をなくし公平にできる。また、税金が高い国デンマークのように医療費・出産費・教育費が全て無料となり、特に出産がある女性は生活しやすい社会になる。そして、充実した年金生活のおかげで老後も安定した生活を送れるなど様々なメリットが多くみられる。でも、やはり、その裏側には国民の高負担、どれだけ仕事を頑張っても、有名企業でも無名企業でも給料は一緒などのデメリットが欠かせないということが分かる。

税金をなくすと社会保障がなくなるなどのデメリットが多いけれど、税金を高くすると女性や子供が生きやすい社会になるというメリットの方が多くなるから、といって、税金を高くしたほうがいいと考えるのは違うと私は思う。私は、講義を聞き、この「もしもの世界」について考えてみて、税金をなくしても、高くしてもあまりいいことではないのに変わりはない。だから、今のこの状況を維持しつつも、働き口を増やし、社会保障の費用を一人一人が負担していくことが、これからの日本社会をよりよくするために必要だと思った。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

持続可能な税の仕組みを目指して

世田谷区立尾山台中学校　三学年　岸本　そら

今回、税について税理士の方にお話を聞き、学校で配布されたパンフレットを読み、自分でもインターネットで調べてみて、様々なことに税金が使われていることを改めて知りました。そして、その使い道は大きく分けて三つあります。

一つ目は教育に使われる税金です。東京都の義務教育期間の９年間の公費負担額は一人当たり一千十七万九千円です。具体的には教科書や学校の設備などに使われています。

二つ目は公共事業に使われる税金です。令和五年度の総額は六兆六百億円です。それらは道路や上下水道など私たちが住みやすい環境にするためだけでなく、震災の復興にも使われています。

三つ目は社会保障に使われる税金です。国の歳出の三十二％を占めているこの税金は、年金や医療、介護、福祉などの公的サービスに使われています。

これら三つの税金は、私たちが生活していくためには必要不可欠なものです。つまり、税金がなければ国を運営することはできません。私たち国民の納税により、私たち国民が住みやすい国を作っていると思います。

しかし、心配なこともあります。それは歳入と歳出のバランスが悪いことです。歳出を歳入で賄うことができておらず、それを補うために国債を発行しています。国債とは、簡易に言うと国の借金のことです。毎年、国債を返済していますが、返済するよりも多く発行してしまっています。このままでは国の財政が破綻してしまうのではないでしょうか。だから、日本の財政について国民全員が真剣に考え、取り組むことが必要だと私は深く思い、感じました。

最近、あるニュースで東京都の水源である矢木沢ダムの貯水率がわずか三十六％だと知りました。水不足の原因は「雨が少ないこと」だそうです。矢木沢ダム周辺の降水量は七月に激減し、八月一七日までに三十・五ミリしか降っていません。現在は台風の影響により貯水状況は回復していますが、今後も雨が降らず猛暑が続く場合には「取水制限」の実施を検討する会議が行われる予定だそうです。小池都知事も、歯磨きやシャワーなどで水の流しっぱなしを止めるというような一人ひとりの協力が大きな効果につながると、節水への協力を呼びかけていました。

私はこのニュースを見て、税金についても同じことが言えるのではないかと思いました。

雨が少ないから雨を降らせばいい、税収が少ないなら税をたくさん集めればいい。ではなく、今ある水、税金を一人ひとりが大切に使う、ムダを無くす。そうすることで必ず大きな効果につながると思います。

何がムダで、何が節約できるのか、みんなで真剣に考え、今よりも未来がよくなるようにしていきたいと思います。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

僕と税金とのかかわり

世田谷区立奥沢中学校　三学年　寺田　紳二

僕たちが健康で文化的な生活を送るために、国や都道府県、市区町村は様々な活動や事業を行っています。それらに必要な費用を賄っているのが税金です。例えば、公立の学校の場合だと教科書、パソコンやタブレット、体育用具や実験器具などに使われています。僕の通っている中学校は、令和七年から校舎を全面的に改修して、児童館を新しく併設することになっています。もちろん、その費用は税金です。また、東京二十三区の中学校では、今年の四月から給食の無償化が始まりました。給食があることも無償化が始まったことも助かる家庭が多いのではないかと思います。

国税庁の資料（令和元年度）によると、公立中学校の生徒一人当たりの年間教育費負担額は、約百九万千円となっています。僕が思っていた以上に多くの税金が使われていることを知り、驚きました。このように税金は僕達の暮らしの中で大きな役割を果たしています。

まず、東京都の歳出（四月から翌年までの一年間の支出）を見てみると「福祉と健康」「教育と文化」や「警察と消防」など、都民生活の質の向上を目的として使われることが分かります。一方、都の歳入（一年間の収入）の主な内訳は、「固定資産税」や「法人事業税」「個人都民税」「地方消費税」などがあります。この中で僕が払っているのは消費税です。買い物の度に支払っています。

先日、世田谷区の広報誌で「ふるさと納税特集号」が配られていたので、読みました。それには、ふるさと納税で区の税源が流出していると書いてありました。ふるさと納税とは、生まれ故郷などへの寄附を通じて、その自治体を応援する制度です。僕の家でも数年前から利用していて、両親の故郷や好きな食品を返礼品としている自治体に寄附しています。僕はハンバーグなどの肉類が大好きです。

利用者が恩恵を受ける制度ですが、問題もあります。それは、ふるさと納税による減収です。多くの自治体では、地方交付税により減収額の七十五％が国から補填される仕組みなのに対し、世田谷区などの地方交付税不交付団体にはその補填がなく、減収分がそのまま流出額となってしまいます。この問題点を世田谷区は国に訴えて制度の見直しを求めています。

また、広報誌などを通して制度の理解を促し、区民に寄附をしてもらうことで自身の税金の使い道の一部を選択することにもつながるというＰＲをして、寄附文化を創る取組みを進めているそうです。

ふるさと納税の趣旨は、素晴らしいと思いますが、東京二十三区は人口が多い分、多くの財源確保が必要なので課題も沢山あることが分かりました。改善が望まれます。

僕は来年神奈川県横須賀市に引っ越すので、大人になって納税するようになったら、今までお世話になった世田谷区にふるさと納税をして恩返ししたいと思っています。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

税金と私たちの関係

世田谷区立瀬田中学校　三学年　平元　呂奈

私は日常生活の中で税金を納めることに対してあまりメリットを感じることがありません。消費税など私たち中学生も自然と税を納める立場になっています。

では、国民が税金を納めなくなるとどうなるのでしょうか。私は、現在税金がどのように使われているのかを調べることにしました。

税金は私たち全員の生活に欠かせないものとし、税を納めることは国民の三大義務の一つとされています。納税したお金は国民の健康と豊かな生活の実現のために使われています。例えば、警察署や消防署、医療費や介護など様々な場面で使われます。もし税金がなくなると、緊急時に救急車を呼ぶのに料金が発生したり、交通事故や自然災害などにより被害を受けた際、援助してもらうサービスも全て有料になってしまいます。

このように、納税に対してメリットを感じていない人は一度税金がなくなった時の世界を想像してもらいたいです。現在当たり前のように送っている生活も税金がなくなってしまえば全て失うことになります。私たちは税金を納めることで、共に助け合い暮らしているのです。

そんな税金ですが、もちろん課題も抱えています。

それは、社会保障関係費の上昇です。これにより日本は歳出の３分の１を公債金に頼ることになっています。

私はその原因は少子高齢化にあると考えます。一度視点を変え、日本の少子高齢化についての現状をお話しします。

現在、日本は、少ない若者が多くの高齢者を支えていかなければならない状況にあります。ですが、どんどん高齢者が増えている一方、出生率は大幅に減少しているため、このままでは私たち自身の生活を支えることさえ難しくなってしまいます。高齢者の増加に伴い社会保障などの公的サービスの増加は避けられないものです。

このような状況を解決するには、税収を増やし一人一人の負担を大きくするのではなく、税を納める人を増やす必要があります。そのためには、子育てしやすい環境作りや誰もが働ける場を整備することに税金を使うべきだと思います。また、社会保障をはじめとする公的サービスの費用をあらゆる世代が公平に分かち合うためにある消費税は、かなり重要なものだと思います。なので、消費税の役割を見直し、ただ消費税を引き上げたりするのではなく、国民の理解を得るために社会保障支出や社会保障負担との関係をより詳しく説明することが必要です。

税は私たちの生活になくてはならないものです。これからの世代がより豊かに暮らしやすい生活をするためには、国民一人一人が社会に貢献していくことが重要だと考えられます。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄組合連合会　優良賞

私たちの未来を担う税金

吉田　みゆな

私が税について考え始めたきっかけは学校の教科書にある。私は小学生の頃、教科書配布時に一つの違和感を覚えた。なぜなら、普通の本には裏に値段が書いてあるのに、教科書には￥〇〇〇〇〇Ｅと書いてあったからだ。ゼロ円？こんなに沢山の教科書が全部無料？と疑問に思った私は、母に

「この教科書の裏の表示って無料って事？」

と聞いてみた。母は

「それには税金が使われているんだよ。」

と教えてくれた。確かに教科書の裏をよく見てみると『この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に扱いましょう。』と書かれている。こんな何種類もの教科書を何万人分も税金で用意しているのかと考えると、私は税金が教育とどのような関係があるかについて調べずにはいられなかった。

税金と教育の関係について調べてみたところ、どうやらパソコン、実験器具や体育用具、プールに教室の机や椅子や黒板、さらには校舎を建てるお金にも税金が使われているのだという事を知った。私は税金と教育の関係について調べたことにより、とても税金が身近なものに感じられるようになった。さらに調べていくと、びっくりするような記事が目に入った。その記事とは、一年間で一人当たりの子供に使われる税金の金額についてのもので、小学生は約八十四万八千円、中学生は約九十七万九千円、高校生では約九十一万三千円が使われていると書かれていた。日本の中学生は文部科学省の発表から三百二十万五千二百二十人として計算すると、日本の中学生に対してだけでも三兆円以上の税金が使われていることになる。私は今まで消費税率十％は高いのではという考えを持っていたが、こう考えると決してそんな事は無いのかもしれないと考えが変わった。そして考えが変わったことがもう一つ。教科書を雑に扱っていたり、机に落書きをしている人を見ると、それらは税金で支給されている大切にすべきものなのにな、と思うようになった。私の中で今まで以上に学校のものを大切にしようという意識が芽生えたのである。

私は今回、今まで疑問に思っていた事の答えから新たな発見をすることができ、そこから中学生の私も税金を払い、税金を使う社会の一員なのだという意識を強く持つ事ができるようになった。この“社会の一員”という意識を忘れずに教育関連以外の税のことについても理解を深めていきたい。そして税金のありがたさや大切さを未来の子供達に伝えていけるような大人になりたいと強く思う。

令和五年度　中学生の「税についての作文」優秀作品

玉川納税貯蓄連合会　優良賞

台風被害から学ぶ税

世田谷区立八幡中学校　三学年　米田　あろえ

令和元年、台風十五号が関東地方を通過した。その日の夜は東京に住む私も暴風と豪雨の音でなかなか眠ることができなかったが、朝起きると空は何事もなかったかのように晴れていたので「よくある台風」程度に思っていた。しかし、その安心も束の間であった。学校から帰宅すると、母が「南房総に住む友人と連絡がとれない」と青ざめていた。私自身も、二拠点生活をしていて南房総に家を持っているため、他人事ではなかった。その週の土曜日、私は母と兄と南房総に向かった。そして房総半島に渡った途端、被害を目の当たりにした。地面に横倒しになった電柱、剥脱した外壁、屋根まで剥がれ落ちていた。なぎ倒された木々によって道がふさがれて、買い物にも行けず孤立してしまう集落も多くあった。

更にその一週間後、私は再び南房総に向かった。すると、もう復旧は無理なのではないかと思うほど荒れていた街並みが驚くほどきれいになっていた。道をふさいでいた木々が撤去され、止まっていた電気や水道などのインフラも元通りになり始めていた。また、これは後から知ったことだが、申請するとボランティアの方々の交通費が援助されるなど、支援しやすい体制も組まれていたらしい。現地に住む友人は自衛隊の方やボランティアの方による素早い対応に感動したと話していた。

私たちは、災害大国に住んでいて、誰もが被災者になるリスクを背負っている。私たちが当たり前に思っている安全な暮らしは、自然の脅威によって突然奪われることがあるのだ。そして、そのように予想外の事が起き自分の身が危険にさらされてはじめて、私たちの生活がいかにもろくて頼りないものなのか実感させられる。そこで、自分の力だけではどうにもならない部分を補ってくれるものが税金なのだ。南房総での台風被害では、インフラの復旧や自衛隊による救助活動などの多くは税金によってまかなわれた。税金には災害によって壊された暮らしを元に戻す力があるのだ。

私たちが普段から払っている税金は、自分で自分のことを支えるシステムではなく、皆で支え合うシステムである。集められた税金は、自然災害の被害に遭った人や困窮した人に再分配される。他人事に感じられるかもしれない。しかし、その当事者になるリスクは誰にでもある。だからこそ税には意義があるのではないだろうか。安心して暮らせる生活の基盤は税によってつくられているということを理解し、社会の一員として税を払うことで、自分や自分の大切な人、そして皆の暮らしや未来を守っていきたい。

玉川税務署管内中学校

中学生の「税についての作文」応募状況

（編）

中　学　校　名		令和5年度	令和4年度	令和3年度
国公立中学校	奥沢中学校	36	50	24
	尾山台中学校	90	119	88
	砧南中学校	44	90	70
	瀬田中学校	94	100	105
	玉川中学校	117	107	102
	東深沢中学校	124	127	121
	深沢中学校	141	104	131
	八幡中学校	7	52	65
	用賀中学校	149	123	135
	東京学芸大学附属世田谷中学校	127	45	130
私立中学校	聖ドミニコ学園中学校	52	51	63
	サレジアン国際学園世田谷	1	0	0
	合　計	982	968	1,034